

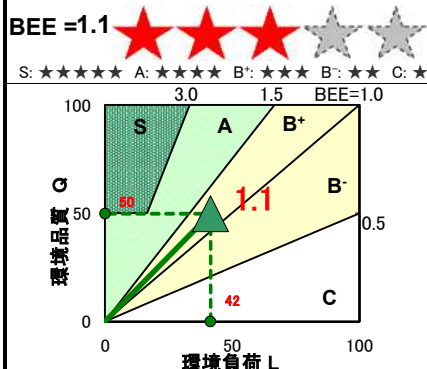
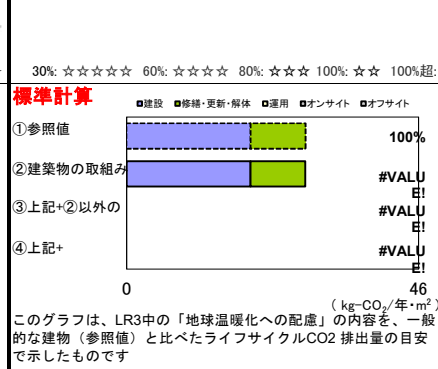
CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

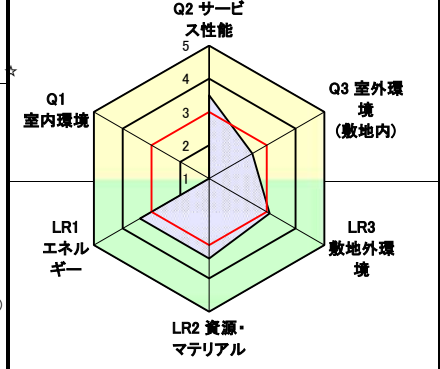
1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	タムラ製作所 入間・狭山事業所再建	階数	地上3F	
建設地	埼玉県狭山市広瀬台二丁目591番	構造	S造	
用途地域	工業専用	平均居住人員	60 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	6,000 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年9月22日	
敷地面積	48,820 m ²	作成者	安藤ハザマ	
建築面積	3,645 m ²	確認日	2025年9月22日	
延床面積	6,598 m ²	確認者	安藤ハザマ	



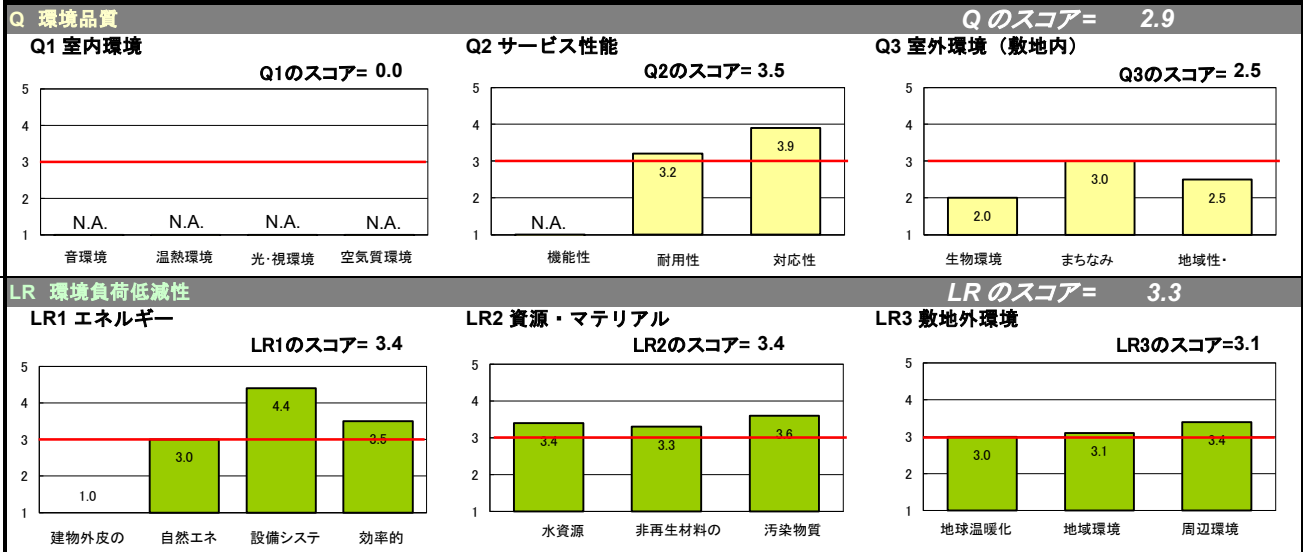
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 必要な機能をコンパクトに納め、環境負荷を抑えた建物を計画した。			その他 特になし
Q1 室内環境 -	Q2 サービス性能 階高、積載荷重を十分確保した。	Q3 室外環境 (敷地内) 街並みに調和した建物ボリューム、外装デザインとした。	
LR1 エネルギー 照明器具は全てLEDとした。	LR2 資源・マテリアル 内装材にリサイクル建材を採用した。	LR3 敷地外環境 建物を敷地境界から離して配置し、北側への日影を抑えた。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
タムラ製作所 入間・狭山事業所再整備計画(製造棟)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					-		-	-
1 音環境				-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-		-	
1.2 遮音				-	-		-	
1 開口部遮音性能				-	-		-	
2 界壁遮音性能				-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音				-	-		-	
2 温熱環境				-	-		-	-
2.1 室温制御				-	-		-	
1 室温				-	-		-	
2 外皮性能				-	-		-	
3 ゾーン別制御性				-	-		-	
2.2 湿度制御				-	-		-	
2.3 空調方式				-	-		-	
3 光・視環境				-	-		-	-
3.1 昼光利用				-	-		-	
1 昼光率				-	-		-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備				-	-		-	
3.2 グレア対策				-	-		-	
1 昼光制御				-	-		-	
3.3 照度				-	-		-	
3.4 照明制御				-	-		-	
4 空気質環境				-	-		-	-
4.1 発生源対策				-	-		-	
1 化学汚染物質				-	-		-	
4.2 換気				-	-		-	
1 換気量				-	-		-	
2 自然換気性能				-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮				-	-		-	
4.3 運用管理				-	-		-	
1 CO ₂ の監視				-	-		-	
2 喫煙の制御				-	-		-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.5
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	
1 広さ・収納性				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	
1 広さ感・景観				-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				-	-	-	-	
1.3 維持管理				-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.50	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		管種のB以上選定		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		配管の耐震支持		4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.9	0.50	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
5,000N/㎡以上							
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm]: 0.66	4.4	0.50	-	4.4
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	部門ごとの消費電力量の提示	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加えて、節水型便器使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	岩綿吸音板、ビニル床シート	4.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材の採用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別4項目以上使用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場の増設	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	廃棄物置場320㎡	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	北側への日影規制1ランク低減	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外サイン無し	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■ 使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称

タムラ製作所 入間・狭山事業所

BEE

1.1

BEEランク

★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO₂の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

3.0

+

2.3

=

5.3



重点項目の各スコアの合計点

がんばろう
6.0未満良い
6.0以上非常によい
6.8以上すばらしい
8.0以上

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減

スコア平均 3.0

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 3.0

<配慮した内容を記述>

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 2.3

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 2.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

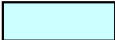
スコア 2.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 3.0

<配慮した内容を記述>

 : 入力欄